

今、私の手元に北部方面総監部が編集し、再刊した「熊に関する百訓」なる小冊子がある。その要点を紹介しよう。

1 本州の熊は南方系の月の輪熊、北海道の熊はシベリア系の罨、北海道でも礼文島には居ない。

2 山林の王者 罨

罨は日本に棲む動物の中で一番大きな動物である。罨は山林の王者と呼ばれ、ゲリラ戦が得意。金色の熊は一般に黒毛熊よりも勇猛。

3 熊が絶滅しない理由は？

北海道開拓以来、蝦夷狼は絶滅したが、熊は未だ 3000 とも 4000 頭とも言われている。絶滅しない理由としては、冬籠り、雑食、孤独(徹底した分散)であると言われる。

4 熊の分布域

開発の進行等により、現在では次の 5 つの地域に分断生息している。渡島半島、積丹・恵庭、天塩・増毛、道東・宗谷、日高・夕張

5 熊は動物界の食通である。

熊はもともと肉食であるが、雑食性で植物質をも良く食べる。雑食性が熊の強みだ。肉食の為の犬歯と草食用に臼歯を持つ。熊は良く噛むことなく、丸呑みする性質がある。一度味をしめたらしつこく求める。人間の食べる物は何でも食べ、甘味が好物だ。食べる物がなくなれば、腐肉も土葬死体をも食する。何故かは解らないが、犬の肉は大嫌い。

家畜なら何でも食べる。馬は熊に全く飲まれてしまって熊の毛皮でも恐れる。鹿・兎も、蜂の巣・さなぎ・蟻やその卵等を好む。朽ち木を割って蟻を掌に付けて食べるとも言う。

鮭・鱒・ザリガニ・蟹、干魚・烏賊、魚、更には、農作物は全て、特にトウモロコシは好物
冬眠前には、山頂から麓へ植物を追って降りてくる。春先には、フキノトウを漁り、ユリ科植物の根、露の根、熊笹の筍等を掘って食べる。コケモモやナナカマドの実も食べる。

罨がどれほど食通か解って貰えたでしょうか。

6 冬眠は冬眠にあらず、単なる冬籠り！

熊は、冬眠しているのではなく、ただ食べ物を食べずに穴籠りしているのみである。体重の 25% のエネルギーを消費、体温は 4 度低下。因みに温血動物で冬眠するのはシマリスや蝙蝠である。熊穴は一般に出入り口は一つだが、まれに 2 つの場合も。雌は冬籠りの間、1~2 月に出産、飲まず食わずに子供を育てる。子供は 1 頭か 2 頭、体重 400g。

7 交尾と熊の群生する機会

初夏 5 月から 7 月は交尾期で 1 頭の熊を巡って 2~3 頭の熊が闘争する。勝った熊が雌を独占し、負けた雄熊はそのアベックの後から付いていく(情けない姿だが、何を考えているのやら・・・)。

8 罨の行動範囲

ある調査によれば、追跡し得た雌の行動範囲は、5,0 平方キロ、他の熊では推定 15 平方キロ、雄の行動範囲は、広大で 100 平方キロを超えているようだ。熊は、夕方薄暮時期に最も活動する。従って、この時期が人間と遭遇する機会が多くなる。

9 熊の 1 人立ち

熊の親子は 1 年目の冬は一緒に冬籠りし、それが明けると母親の下を離れて独立する。

- 10 体重・身長：320kg位が最大で、400kg超のは少ない。2～2.8m程度。
足跡の長さの8～10倍が身長である。
- 11 熊は利口だ
人間と接して生きる熊は利口だ。上手な止め足を使用して後側方から襲う。毒殺しようとしても毒を残して食べる。毒物を食べてから水を飲んで吐く。殺した牛を水流中に付けておいて腐るのを防ぐ etc
- 12 熊の行動能力（熊は能ある4つ足）
平地速度は25km/hで馬より遅く自転車より速い。山林や藪等の中では素晴らしい速度を発揮、ハイ松の中では音も立てずに風の如くに。熊も通り易い道を通る(熊道)、登攀速度は下るよりも一般に速い。木登りの名手(木に登って逃げようとしても無駄だ。)爪を立ててどんな木でも易々と登る。木の上から獲物を狙うこともある。梢までも可。泳ぎも人間より上手だ。跳躍力も相当ある。以上の如く、熊の字を考えて貰いたいのだが、『能ある4つの足』が熊と言う字なのだ。名は体を現している。
- 13 噛み付きとがっちゃき
熊の最も得意とするのはパンチである。パンチによって一撃を加えてから噛みつきと、がっちゃき(引き裂き)をする。オスは左利き、雌は右利き、前肢は極めて怪力で大木を折ったり倒すことが出来る。殺した動物を食べるときは、腹部をまず引き裂き内臓部を食べる。獲物の急所はよく承知している。牛馬は尻と首である。
- 14 止め足について
熊が追われて最後に身を忍ばせる時に、逃げてきた足跡その上をなぞって若干引き返してから横にポンと飛び込んで身を隠す習性を言う。これを知らずに足跡を追いかけていると突然後方、側方かの隠れた場所から踊りでて追っ手を不意急襲する。多勢の場合は先頭が意外に安全なのはこの為だ。
- 15 共食い!
熊は決して死骸を見せない。雌をめぐっての雄同士の決闘や冬籠り前の餓鬼道に陥った時の闘争では共食いはよくあるという。夫婦が同じ穴に入らないのも冬籠り時の共食いを避けるための習性である。
- 16 熊爪による傷は治りにくい!
熊爪の傷は治りにくいので、有名だ。毒があるからだと言われているが、爪が鉤のようになっているので、消毒や完全治療が難しいからだ。
- 17 熊は音が嫌い
一般的に熊は音を嫌う。警笛・鈴、ラジカセ等を携行したり、談笑しつつ行動すると良い。人声も嫌う。熊の天敵は人間である。レンジャー訓練でも熊対策をしっかりやって入山している。
- 18 熊は、煙をも嫌う
他の動物と違って、北海道の熊は火を恐れない。穴熊を獲る時には青い松葉・杉葉等で燻すのはご存知だろう。従って、発煙筒にも弱い。涙腺がないので、催涙ガスには無反応。
- 19 熊対策
① 先ず、襲ってくるかどうかの見極めを！ 襲ってくる場合には立ち上がり、四つん這いの時は襲ってこない。
② 熊は人間を最も恐れている。人間をなるべく回避するのが常道

- ③ 熊に逃げる機会を与えよ。放歌高吟・談笑して、人間の存在を知らせるべし。熊の方から危険を避ける筈だ。
- ④ 出会い頭時の対応：熊との睨み合いに負けるな、目を逸らしたら負けだ。逃げると追ってくる。
- ⑤ 死んだ振りで助かるか？必ずしも助かるとは限らないが、死んだ振りだから助かったのではなく、熊がこの人間は無抵抗だと認識したが故だ。
- ⑥ 立ち木の周りを廻って助かった人もいる。人間のほうが軽快に回転出来る。
- ⑦ アイヌ犬が有効 いい加減な犬では怖気づいて使い物にならぬ。
- ⑧ 命の次に大事な物を与えよ。という訳ではないが、何か物を投げ与えて助かった例もある。
- ⑨ 陰な熊を作らぬ為に、食物や残飯を放置しない。熊の嗅覚は極めて敏感。一度味をしめたら、何度でもやって来る。

20 人を襲う悪い熊

- ① 穴持たず（なし）熊（所謂ルンペン熊）
冬籠りの時に十分脂肪層を蓄えていない熊は、必死だ。何でも食べる。降雪後には、食べる物は人間と家畜しかない。
- ② 手負い熊
猟師が撃ち損じて怪我をした「手負い熊」は時期の如何を問わず、人間に敵意を剥き出しにし、極めて危険である。熊は急所でない限り簡単には死なない。
- ③ たちの悪い熊
アイヌは熊の顔を見て性質の善悪を判断したというが、その地域の熊がどのような熊かは、土地の人に聞くしかない。毛色悪く痩せた熊は要注意？
- ④ 子連れ熊
小熊を連れた母熊も恐るべき獰猛性を発揮する。女性は弱し、されど母親は強である。今はこの俚諺は死語かも知れぬが。

21 射殺した時には止めを！

熊狩りの話は省略するが、熊の強靭さを示すものとして射殺した時の注意事項を述べる。即死のように見えても、直ちに近づいてはいけない。止めを数発撃って様子を見るべきだ。足の底を見せたら近づいても良いと言うけれども、そうとばかりは言えない。一時失神状態の時もありうる。傷口から赤い血の泡がブツブツと吐き出しながら仁王の如くに両手を上げて射手に向かってくる剛の者だ。ライオンやトラの比ではない。

22 熊狩り余談

- ① 黒い服の鉄道員が休日にワラビ採りに行き、熊に間違われて撃たれた。
- ② 白い服の熊撃ちは嘔み付かれ、カーキ色の服を着た人には跳びつかなかった。赤い服も熊の目を引く。
- ② 女の人が山で用便をしており、誰何しても動かないので、熊と間違われて撃たれた。

23 熊の胆、熊の肉

臥薪嘗胆という言葉があるが如く、非常に苦い。熊の胆は胃ケイレンの特効薬

肉：熊の常食により肉の味が異なる。小生の記憶ではパサパサしていたような気がするが・・・